

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-298058

(P2005-298058A)

(43) 公開日 平成17年10月27日(2005.10.27)

(51) Int. Cl.⁷

B65D 51/24

F I

B 6 5 D 51/24

Z

テーマコード(参考)

3E084

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2004-139225 (P2004-139225)

(22) 出願日 平成16年4月6日(2004.4.6)

(71) 出願人 594206794

二藤パルテック株式会社

大阪市中央区島之内1丁目13番18号

(72) 発明者 後藤 啓子

大阪府八尾市山本町南5丁目1番6号

(72) 発明者 後藤 征子

大阪府八尾市山本町南5丁目1番6号

(72) 発明者 後藤 英子

大阪府八尾市山本町南5丁目1番6号

Fターム(参考) 3E084 AA04 AA24 AB01 BA01 CA01

CB04 CC03 DA01 DB11 DC03

FA09 LA17 LB02 LB07

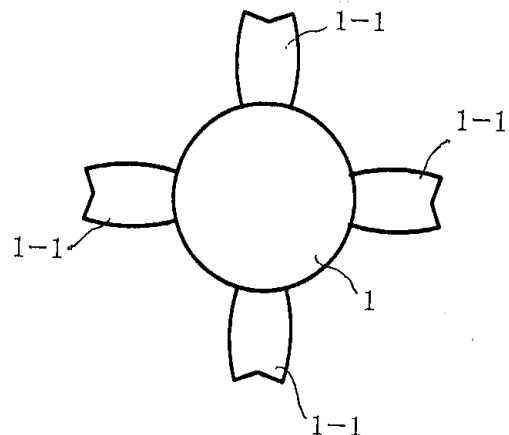
(54) 【発明の名称】 ペットボトルのキャップ

(57) 【要約】

【課題】 ペットボトルのキャップに取っ手を一体成形することによって、特別な工具を使用することなく女性や子供、手指の不自由な身体障害者や老人が楽に開栓することができるペットボトルのキャップを提供すること。

【解決手段】 ペットボトルのキャップ外周に水平方向に張り出す取っ手を一体成形したことを特徴とする。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

ペットボトルのキャップ外周に水平方向に張り出す取っ手を一体成形したことを特徴とするペットボトルのキャップ。

【請求項 2】

請求項 1 記載の取っ手の平面形状を花型としたことを特徴とする請求項 1 記載のペットボトルのキャップ。

【請求項 3】

請求項 1 記載の取っ手の平面形状を台形状としたことを特徴とする請求項 1 記載のペットボトルのキャップ。

10

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は例えば清涼飲料水やジュース等の入ったペットボトルのねじ式キャップに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来この種のペットボトルは合成樹脂製のボトル本体の口部に合成樹脂製のねじ式のキャップを取り付けた構造のものが知られている。

【発明の開示】

20

【発明が解決しようとする課題】**【0003】**

しかしながら上記従来構造の場合、上記キャップの外周面に複数個の縦溝が形成され、キャップをボトル本体から外す際やキャップをボトル本体に装着するとき、キャップの外周面を指で握って縦溝を滑止めとして廻すことになるが、これらキャップの外径は比較的小さく、ボトル本体の口部に強く締め付けられているため、特に最初の開栓時には、大きな力が必要となって握る力の弱い女性や子供にとっては非常に厄介であり、又、手指の不自由な身体障害者や老人にとっては大変困難なことがあるという不都合を有している。

【0004】

従って、上記のような女性や子供、手指の不自由な身体障害者や老人においては、最初の開栓時に開栓のための特別な工具を購入して使用する必要があった。

30

【発明の目的】**【0005】**

本発明は、ペットボトルのキャップに取っ手を一体成形することによって、特別な工具を使用することなく女性や子供、手指の不自由な身体障害者や老人が楽に開栓することができるペットボトルのキャップを提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本発明に係るペットボトルのキャップは、ペットボトルのキャップ外周に水平方向に張り出す取っ手を一体成形したことを特徴とするものである。

40

【発明の作用】**【0007】**

本発明では、ペットボトルのキャップ外周から取っ手が水平方向に張り出しているため、キャップ自体を強く握らなくても取っ手部分を開栓方向に押し廻すだけで楽に開栓でき、また、一部料飲後もボトル内部に残った清涼飲料水やジュースが零れたり、清涼飲料水中の炭酸ガスが抜けないようにしっかり閉栓することができる。

【実施例】**【0008】**

図 1 は、本発明に係るペットボトルのキャップの平面図、図 2 は、同キャップをボトルに装着した状態の側面図、図 3 は、取っ手の形状を変えた本発明に係るペットボトルのキ

50

キャップの平面図、図4は、同キャップをボトルに装着した状態の側面図である。

【0009】

図において、1は、本発明に係るキャップであって、キャップ外周に水平方向に張り出す取っ手1-1・・・1-1を一体成形してある。

【0010】

尚、取っ手1-1の長さや厚さは開栓時に折れたり、曲がったりしない程度であればよく、また、どのような平面形状であってもよいもので、図1では花型、図3では台形状にしてある。

【0011】

2は、ペットボトル本体である。

10

【発明の効果】

【0012】

以上述べた如く、本発明に係るペットボトルのキャップによれば、ペットボトルのキャップ外周に水平方向に張り出す取っ手を一体成形したものであるから、キャップ自体を強く握らなくても取っ手部分を開栓方向に押し廻すだけで楽に開栓でき、また、一部料飲後もボトル内部に残った清涼飲料水やジュースが零れたり、清涼飲料水中の炭酸ガスが抜けないようにしっかり閉栓することができるもので、女性や子供、手指の不自由な身体障害者や老人においても最初の開栓時に開栓のための特別な工具を購入して使用する必要もなく、楽に閉栓したり、しっかり閉栓することができ、バリアフリー効果は多大である。

【0013】

また、図1、図3の実施例のようにキャップの外周部分に複数個の取っ手を放射状に突設しておけば、複数個の取っ手の間が指の差し込みが可能な指入部となり、指を容易に指入部に入れてキャップ自体を握ることなく開栓したり、閉栓することができ、取っ手の平面形状を色々変えることによって清涼飲料水等の種類を一目で識別できたり、意匠的效果を期待することもできるものである。

20

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るペットボトルのキャップの平面図である。

【図2】同キャップをボトルに装着した状態の側面図である。

【図3】取っ手の形状を変えた本発明に係るペットボトルのキャップの平面図である。

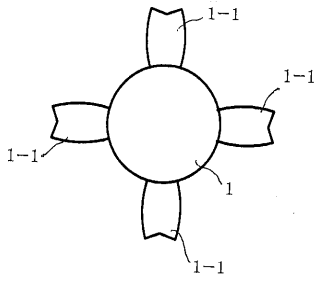
【図4】同キャップをボトルに装着した状態の側面図である。

30

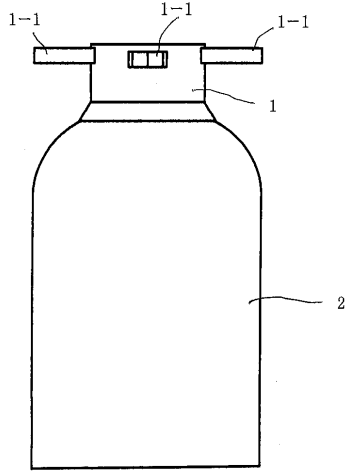
【符号の説明】

- | | |
|-----|----------|
| 1 | キャップ |
| 1-1 | 取っ手 |
| 2 | ペットボトル本体 |

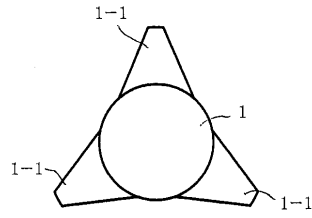
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】

